

# 予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：農林水産業費 項：林業費 目：林業振興費

## 事業名 森と木と水の環境教育推進事業費 (森林・環境税分)

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

林政部 恵みの森づくり推進課 木育推進係 緑化推進係

電話番号：058-272-1111 (内 3035) E-mail: [c11513@pref.gifu.lg.jp](mailto:c11513@pref.gifu.lg.jp)

1 事業費 8,569 千円 (前年度予算額：9,283 千円)

### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	9,283	0	0	0	0	0	9,283	0	0
要求額	8,569	0	0	0	0	0	8,569	0	0
決定額									

## 2 要求内容

### (1) 要求の趣旨 (現状と課題)

- ・ぎふ木育に関する「教育機関での出前講座」や「県民向け体験イベント」を継続し、「ぎふ木育30年ビジョン」の普及を図る。
- ・県内未設置等の市町村の児童館等において、常設の「ぎふ木育ひろば」を設置し、いつでも、だれでもが「ぎふ木育」を体験することのできる環境を整備する。
- ・ぎふ木育30年ビジョンに基づく人づくりを効果的に実施していくため、保育・教育機関の職員等を対象とした「ぎふ木育教室指導者養成研修」を実施する。

### (2) 事業内容

○保育・教育機関における「ぎふ木育」の実施

【対象者】保育園・幼稚園・小中学校、高等学校等

森や木や水などの自然環境に親しみ、正しく理解するための体験や学習会(「緑と水の子ども会議」「ぎふ木育教室」)を実施。

○「常設版ぎふ木育ひろば」の設置・活用

- ・児童館、子育てサロンなど、不特定多数の子育て世代が利用する施設に、木育教材や内装木質化キットをモデル的に設置し、身近に「ぎふ木育」にふれることのできる施設を「ぎふ木育ひろば」として認定。また、ぎふ木育ひろば地域拠点施設において「ぎふ木育ひろば」の設置施設職員を対象に研修会を実施。

- 「ぎふ木育教室指導者養成研修」の開催
  - ・ぎふ木育推進員等を講師として、保育・教育機関の職員等を対象とした研修会を年2回程度開催する。
- ぎふ木遊館と morinos の連携プログラムの実施
  - ・ぎふ木遊館と森林総合教育センター（morinos）が連携を図り、木育と森林教育をつなぐ連携プログラムを実施。

(3) 県負担・補助率の考え方

清流の国ぎふ森林・環境基金対象事業

(4) 類似事業の有無

無

### 3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	3,710	講師等謝金
旅費	1,129	講師等費用弁償及び業務旅費
需用費	2,226	研修教材費、広報啓発経費等
役務費	4	通信運搬費等
使用料及び賃借料	1,500	研修会場、バス借上げ料
合計	8,569	

### 決定額の考え方

### 4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・長期構想
  - IV-1 森・川・海をつなぐ清流とふるさとの自然を守る
    - ・森林がもつ水源かん養機能など多面的な機能を維持・増進し、健全で豊かな森林をつくる取組を進め、岐阜県の自然と水源を守る。
- ・第3期岐阜県森林づくり基本計画
  - (3)人づくり及び仕組みづくりの推進

(2) 国・他県の状況

国は国有林をフィールドとして活用して推進しているほか、委託事業でPR活動をしている。また、ほぼ全ての都道府県で同様の森林に関わる体験活動を支援している。

(3) 後年度の財政負担

課税期間である令和3年度まで税収に応じ事業を実施。

(4) 事業主体及びその妥当性

ぎふ木育30年ビジョンに基づき県が実施。

# 事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### (事業目標)

より多くの保育・教育機関において、森や木や水などの岐阜県の豊かな自然環境について正しく理解するための体験・学習活動の実施を支援し、森林に対して責任ある行動をとることのできる人づくりを行う。また、それらの活動が段階的・継続的に取り組まれるよう、指導者やサポーターの育成を行う。

### (目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前	指標の推移	現在値	目標	達成率
木育教室・緑と水の子ども会議実施者数(延べ)	- (H22)		6,741 (R1)	6,700 (R3)	100.6%
木育・森林環境教育指導者研修受講者数(延べ)	- (H22)		490 (R1)	650 (R3)	75.4%

### ○指標を設定することができない場合の理由

### (前年度の取組)

#### ・事業の活動内容(会議の開催、研修の参加人数等)

- 県内118箇所の施設(保育園・幼稚園、小中学校、高等学校、特別支援学校等)で、ぎふ木育教室及び緑と水の子ども会議を開催。
- 下記のとおり、ぎふ木育に関する研修会を開催  
 ぎふ木育教室指導者研修 4月24日(43名)・2月7日(27名)  
 ぎふ木育大交流会 11月2日～4日(延べ1,285名)
- 県民参加型イベントとして、ぎふ木育キャラバン(岐阜市ほか)を実施。
- 常設版「ぎふ木育広場」を、県内の児童館、図書館、子育て支援センターなど26箇所に設置するとともに、設置施設職員を対象とした研修会を実施し、ぎふ木育を地域に普及させる拠点として整備した。

### (前年度の成果)

#### ・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果

- 木育や森林環境教育を取り組む教育機関の数は年々増加しているとともに、各地域で「ぎふ木育」に関わる指導者が増えつつある。
- ・県民参加型のイベントを各地で開催するとともに、新たに常設の体験施設を整備するにより、「ぎふ木育」の浸透につながっている。

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

・ 事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い、△：必要性が低い	
(評価) ○	将来の森林づくりを担う人材のみならず、消費活動等を通じて森林づくりを支える県民を育てることにつながるため、他の各施策の土台として事業の必要性は高い。
・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている、△：まだ期待どおりの成果が得られていない	
(評価) ○	事業を活用する施設、研修の受講者数ともに増加しており、ぎふ木育の普及が進んでいる。
・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている、△：向上の余地がある	
(評価) ○	各農林事務所単位での説明会を開催し、事業の主旨や手続きの流れを保育・教育機関へ丁寧に説明して実施している。

### (今後の課題)

・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項	
・ 教育機関での出前講座や、期日が決まったイベントなどで「ぎふ木育」を普及しているが、より一層の普及促進のためには、いつでも、だれでもが「ぎふ木育」に触れることのできる場所がさらに必要である。	
・ 県民協働の森林づくりの気運を高めるために、木のおもちゃの関係者に限らず、「ぎふ木育」に関わる様々な立場の応援団を増やしていく必要がある。	
・ 令和2年7月にオープンしたぎふ木遊館と森林総合教育センター(morinos)を核とし、ぎふ木遊館での木に親しむ日常の暮らしからのアプローチとmorinosでの自然のフィールドを生かした森からのアプローチの両面から、「ぎふ木育」を県内全域に普及していく必要がある。	

### (次年度の方向性)

・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか	
・ 引き続き、児童館、子育てサロンなど、不特定多数の子育て世代が利用する施設に設置した、常設の「ぎふ木育ひろば」を活用し、「ぎふ木育」の推進を図る。	
・ 森や木を活用した子育てに取り組む団体等を対象として「ぎふ木育交流会」を実施し、母親世代を中心に、ぎふ木育の応援団を増やしていく。	
・ ぎふ木遊館とmorinosをつなぐ連携プログラムを実施する。	